

パンデミックに対してレジリエントな社会・技術基盤の構築  
2021年度採択研究者

2021年度 年次報告書
-----------------

武見 綾子

東京大学 未来ビジョン研究センター／科学技術振興機構  
特任研究員／さきがけ研究者

感染症対応における国際・国内ガバナンス向上に関わる研究  
—情報共有における異分野間連携と医薬品開発投資戦略に着目して—

## § 1. 研究成果の概要

新型コロナウイルスの脅威を受けてグローバルヘルスに関わる国際的枠組みの見直し/新たな構築の必要性が認識されたことを受け、まず基本的な提案や選択肢、前提となるグローバルヘルスガバナンスにおける課題などを詳細にまとめた。また、具体的に制度形成が進む中、その背景にある政治的な動きや、それぞれのガバナンスメカニズムの状況等につき精査を行った。特に、現在提案されているいわゆる「パンデミック条約」や、G20 のリードにより提案された Health Financing Task Force など、今年度中に新たな動向が観察されたメカニズムを注視し、これらがそれぞれにどのような特性を持ち、実現にあたってその特性がどのように反映される可能性があるか分析を加えた。特に、どのメカニズムが、現在課題とされているどの要素へのアプローチをカバーするものであるか、またそれらが全体として必要な課題を網羅するかについて、批判的な視点も含め検討した。また、より広く、今後平時体制の中にも有事体制への対応を埋め込む必要がさらに高まることを意識し、新型コロナウイルス対応への各国の対応のレビュー等を通じ、平時の保健システム強化における健康危機対応能力強化のための要素などを分析した。ここでは、特に情報管理も含めた総体的なマネジメントシステム、柔軟な人材の登用制度、コミュニティエンゲージメントの重要性とこれを有効活用するための課題が特定された。それと並行し、また一部関連して日本国内のワクチン開発・生産体制強化戦略などを注視し、どのような形で flexibility や agility が平時の制度に埋め込まれるか、検証した。ここでは、現在提案されているデュアルユース施策や、海外展開施策、プラットフォームテクノロジー等に特に注目した。

今後、上述の研究をさらに進展させるとともに、医薬品分野の投資戦略の構築や感染症を中心とした多分野の迅速な情報共有を実現するための国内体制の強化等について研究を推進する予定である。